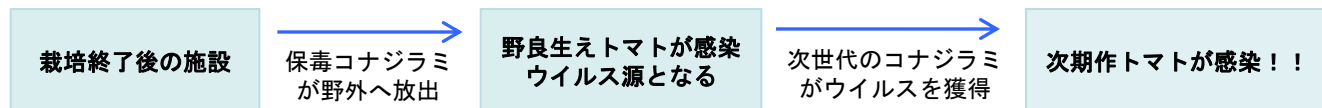


# コラム①：トマト黄化葉巻病の防除は栽培終了後が最も重要です

近年、栽培後期のトマトほ場ではトマト黄化葉巻病の発生が多く見られます。栽培終了後の施設内にいるタバココナジラミの多くはトマト黄化葉巻ウイルスを持って(保毒して)おり、そのコナジラミが野外に放出されると次期作の感染源となってしまいます。トマト黄化葉巻病を発生させないためには、栽培終了後の対策が非常に重要となります。次期作に向けて地域ぐるみで防除対策を徹底しましょう。



## 1 栽培終了後の施設からタバココナジラミを出さない

次期作への感染源を断つために以下の手順を参考に十分な期間を確保し、施設の蒸し込み処理を必ず行いましょう。コナジラミと感染株を確実に死滅・枯死させ、野外へのコナジラミの放出を防ぎましょう。

### 蒸し込み処理の手順

- (1) 施設内の雑草の除去及びコナジラミの薬剤防除を行う
- (2) 植物は誘引したまま株元から切る、または引き抜く
  - a 根を切断または引き抜き、立った状態で確実に枯らしましょう。
  - b 植物を倒してほ場内に積むと温度が上がりきれずに枯れにくくなります。
  - c 根が繋がっていると植物体内に水分が残っているため虫が生き残ってしまいます。
- (3) 施設を密閉し、蒸し込みを行う
  - a 1～2週間密閉しましょう。(コナジラミの死滅には50℃の温度が必要です。)
  - b 設備が傷むのを防ぐため、側窓は20cm程開け施設内の温度が上がりすぎないように注意しましょう。
- (4) 植物が完全に枯れたのを確認し、残さを持ち出す
  - a 手で茎がパキッと折れる状態を必ず確認しましょう。
  - b 他の病害の感染源にならないよう残さは施設外に持ち出し処分しましょう。
- (5) 施設の開放、次作の植え付け準備等

## 2 感染株と野良生えトマトの除去

- (1) 蒸し込み処理が行えない施設の残さや野積みされている残さは、ビニールシートやマルチ等で被覆しましょう。
- (2) 野良生えのトマトやミニトマトは、トマト黄化葉巻病の感染源、コナジラミの発生源となるため、抜き取ってビニール袋に入れ密封処しましょう。



媒介虫の  
タバココナジラミ



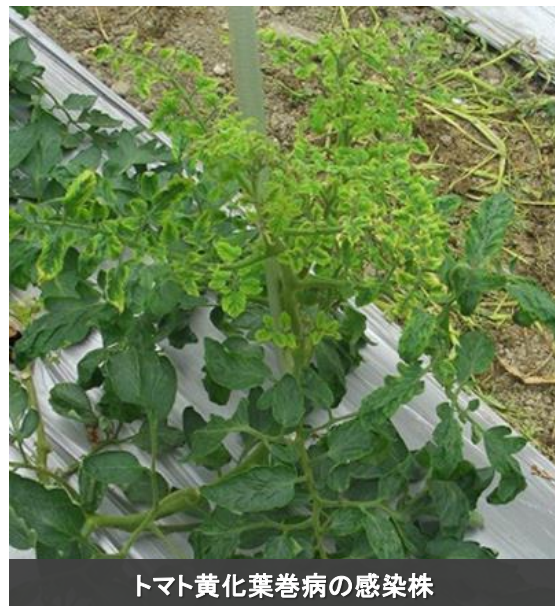
野積みされた残さから発生した  
野良生えトマト



雑草に寄生する  
タバココナジラミ



感染した野良生えトマト



トマト黄化葉巻病の感染株